菅ヶ谷　実穂
SUGEGAYA Miho

手の峰

油彩、キャンバス

手の峰

油彩、キャンバス

手の峰

私は精神の安息をテーマに油絵を制作している。止めどなく流れる日々の中で、その目まぐるしさから心に消化 しきれない疲労が溜まったり、ふとしたきっかけで活力が燃料切れになったりすることがある。そうなった場合、現実から一時でも離脱して意識の奥底へ沈んでいくことで、自分が本当に望んでいることや求めていることに触 れて素の自分に戻ることができる。本来の自分を取り戻すような時間によって心を平常にしていくことで、抱えた 心の負債が清算されると考えた。

作品制作をする際に、日常に存在するつい眺めて時間が経ってしまう場所をモチーフにしている。何気なく目にしているが注視することはあまり無いような、ひっそりとそこに在る空間のことである。物を眺めて放心する無防備な状態が、現実から離脱するきっかけになると考えた。また、キャンバスの布目をなくすように絵具の層を重ねて滑らかな絵肌を作ることで、絵の前に立った時の遠近感を曖昧にし、朦朧とした意識へ誘えるよう努めている。今回の修了作品では、手の甲をモチーフに選んだ。いつも目にしている物でも、ずっと見ていたり近づいて見たりすることで異なった世界を感じることがある。手の節が山のように見え、稜線の穏やかさや凹凸の豊かさによって、脳や体が自然を眺めている時の緊張がほぐれた状態になる。手の甲と山の峰、近と遠の世界の間に柔らかく入り込むことで現実とは別の世界に意識を沈め、普段気が付かないことに触れる機会を作る。このように、ごく身近にも意識を避難させるきっかけがあり、見逃してしまう部分にもたくさんの情報が含まれていることを丁寧に観察していく。そうすることで己の心の機微にも耳を傾け、精神を休ませ労ることに繋がると考えた。そしてまた普段の自分として日常に戻っていくことができるような作品を制作している。